



Turin's Tea Time 国際交流員テュリンのティータイム

夏はヘビの季節？

南半球にあるオーストラリアの今は夏です。この季節になると、私は毎年ヘビのことを考えてしまいます。それは、オーストラリアの田舎の夏は「ヘビの季節」だからです。

蛇を怖いと感じる理由

オーストラリアにはヘビが多く、暖かくなると田舎の草むらにはよくヘビが隠れています。私の実家は野原に囲まれているので、ヘビがたくさんいます。



その見た目や気持ち悪さから、ヘビが怖いという人が多いと思いますが、私が怖いと感じる理由は少し違います。私にとっては綺麗なヘビもたくさんいますし、動物園やペットショップのヘビは大丈夫です。しかし、家の近くの野生のヘビはペットにとって危険です。私が怖がるのは、ペットのことが心配だからです。

大きな動物に噛みつくこともある

多くの動物は自分より大きな動物からは逃げますが、犬や猫が好奇心でヘビに攻撃すると、ヘビは自己防御のため自分より大きな犬や猫にも噛みつきます。オーストラリアでは、ペットの死因としてヘビに噛まれたというのはよくあることです。私が子どものころには祖母のプードルがヘビに噛まれて死んでしまいました。高校生のころには猫が噛まれましたが、動物病院で血清を打って助かりました。

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson 28

相手を否定したくないときに一言

"Whatever floats your boat"

読み方 「ウォテヴァ フロウツ ヨア ボウト」

意味 「君が喜ぶなら何でも」

「かわいいと思わない？」

「いや…でも君が喜ぶなら何でも…」



直訳すると「あなたの船

を浮かせるなら何でも」という不思議なフレーズです。「船を浮かせる」ことは相手が喜ぶことです。相手の喜ぶことを好きじゃなくても、批判せずに「君が嬉しいなら好きにしていよいよ」と伝えられます。

幸運にも、今は大きな犬を怖がり家の近くにあまり来ませんが、それでも時々庭に入ってくるので、この時期はペットを心配せずにはいられません。

日本ではあまりヘビを見かけないので心配する必要はないと思っていましたが、昨年、役場の前でヘビを危うく踏んでしまうところでした。日本でもオーストラリアでも、暖かくなったらヘビに注意しましょう。

Turin's diary

どんど焼きを見に行きました

1月21日に山田小学校のどんど焼きに参加しました。昨年は戸切百合野区に見に行きましたが、今回の方が大規模で、竹の破裂音も大きくてびっくりしました。昨年の出来事や失敗をつい振り返ってしまいましたが、炎をみんなと見てみると、まるで不安も一緒に燃えていくようでした。燃え残った炭を見ると「ゼロから始めましょう」と言われている気がして、なんだか元気になってきました。



会場で、オーストラ

リアにはどんど焼きのような習慣があるのかと聞かれました。オーストラリアの1月は夏なので、乾燥する空気では火災が起こりやすく、火気の規則がとても厳しいためたき火ができません。しかし、春と冬には木の枝などでたき火をして、マシュマロやジャガイモを焼きました。また、オーストラリアの高校では、最後の試験が11月にあります。私の家では、試験が終わったら友達と一緒に学校のノートなどをたき火で燃やして、学校の終わりを祝うパーティをしていました。試験勉強が大変だったので、ノートが燃えていくのを見るとほっとしました。

※ページ内のイラストは、テュリンが描いています